



おくたま 町議会だより

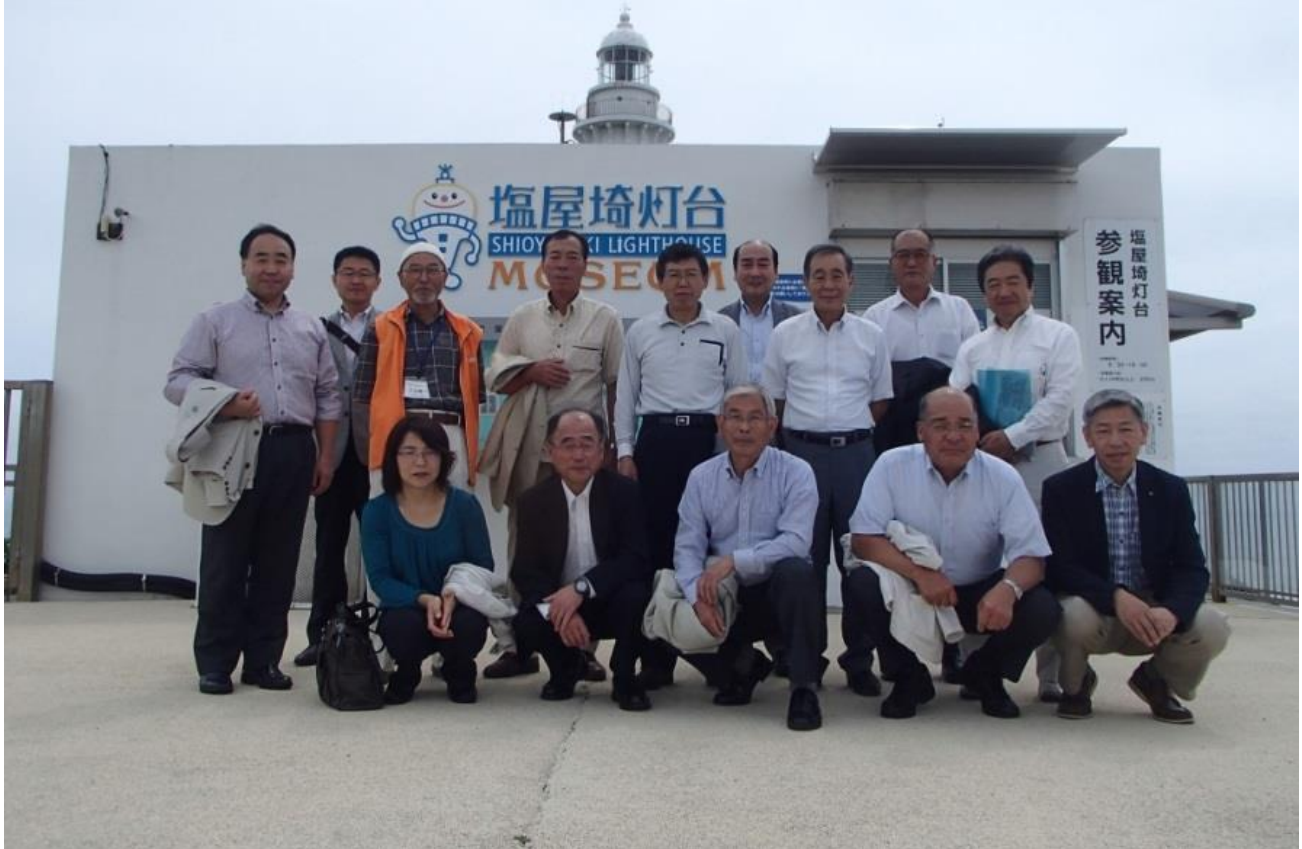
第 178 号

平成 28 年 8 月 5 日発行



編集・発行 奥多摩町議会 電話 0428-83-2302(直通) 奥多摩町ホームページ <http://www.town.okutama.tokyo.jp/>

奥多摩町議会議員管外視察研修



《後列左から3番目、震災語り部ガイドと記念撮影》

2011年3月11日に発生した東日本大震災から、5年を経過したものの、原発事故により、現在も立ち入り禁止区域がある福島県富岡町の状況や、大津波により被害を受けた地区の復興状況等を視察するとともに福島県としても力をいれている「ふくしま観光復興支援」に協力する目的で管外視察研修を実施しました。

★視察報告を13～14ページに掲載しています。



町議会議員補欠選挙結果



当選人 木村 圭(新)
 (任期…平成28年5月15日～
 平成31年11月30日)

第1回臨時町議会

5月20日、第1回臨時会が開かれ、副議長の選挙が行われました。また、各常任委員会等の構成が、次のとおり変更されました。

○副議長 原島 幸次(新)



○総務文教常任委員会

木村 圭(新)

○経済厚生常任委員会

原島 幸次(委員長↓委員)
 師岡 伸公(新委員長)

○議会運営委員会

師岡 伸公(新)

○議会だより編集委員会

原島 幸次(新委員長)

○表彰審査委員会

師岡 伸公(新)

○青少年問題協議会

木村 圭(新)

○下水道事業運営委員会

師岡 伸公(新)

○国民健康保険運営協議会

師岡 伸公(新)

○環境審議会

木村 圭(新)

○小口事業資金融資制度等審議会

村木 征一(新)

○消防団員等公務災害給与金審査委員会

査委員会

原島 幸次(新)

○西多摩地域広域行政圏協議会

審議会

原島 幸次(新)

○奥多摩・檜原間林道鋸山線改修

都道編入促進協議会

原島 幸次(新)

木村 圭(新)

議員一覧

席番号	議員名	会派名
12	須崎 眞	緑水会
11	師岡 伸公	緑水会
10	村木 征一	奥多摩 維新会
9	原島 幸次	緑水会
8	高橋 邦男	緑水会
7	宮野 亨	公明党
6	石田 芳英	森の あけぼの
5	小峰 陽一	緑水会
4	清水 明	緑水会
3	澤本 幹男	緑水会
2	大澤由香里	日本 共産党
1	木村 圭	緑水会

町長提出議案と結果

専決処分

○議案第48号

平成27年度一般会計補正予算

(第5号)

○議案第49号

平成28年度一般会計補正予算

(第1号)

全議員の賛成により承認されました。

第2回定例町議会

第2回定例会は、6月14日から6月17日までの、会期4日間にわたり開催されました。

町長提出議案と結果

次の議案が提出され、いずれ

も全議員の賛成により、原案のとおり可決、同意されました。

条 例

○議案第50号

若者定住応援住宅活用条例

○議案第51号

若者定住応援条例の一部を改正する条例

○議案第52号

議会委員会条例の一部を改正する条例

○議案第53号

町営住宅使用条例の一部を改正する条例

そ の 他

○議案第54号

訴えの提起について
(99カ年地上権抹消登記)

工 事 請 負 契 約

○議案第55号

小丹波地内若者住宅建設工事請負契約

○議案第56号

名坂線林道開設工事請負契約

補 正 予 算

○議案第59号

一般会計(第2号)

人 事

○議案第57号

副町長の選任の同意
副町長、加藤一美氏の任期満了に伴い、次の方を選任することに同意しました。

・加藤一美氏(再任)
(小丹波315番地口)

○議案第58号

固定資産評価審査委員会委員の選任の同意

・山宮敏夫氏(新任)
(小丹波471番地の3)

陳 情 審 査

趣 旨 採 択

○陳情第2号

住民の健康増進と2020東京オリンピック、パラリンピックにむけて
受動喫煙防止条例の早期制定を求める陳情書

議 員 提 出 議 案 と 結 果

次の議案が提出され、全議員の賛成により、原案のとおり可決されました。

○議員提出議案第1号

早期に都政の正常化を求める決議

※決議文につきましては、全文を奥多摩町ホームページ(町議会―会議記録)に掲載しています。スマートフォン、タブレット端末等でもご覧いただけます。

QRコード



一 般 質 問

平成28年6月議会では、17日の3日目に11名の議員が質問を行いました。(通告順)



石田芳英議員

防災無線のハード面とソフト面について

.....
(答) 防災行政無線の整備にあたっては、今後、通信について詳細な調査、設計をし、安全・安心なまちづくりのため、費用対効果を含め、最も有効的・効果的な方法で整備をするよう取り組んでいきたい。

石田 ①防災無線のハード面の整備は今後どのようなものか
②現在、大雪や台風、地震等の災害発生時の防災無線の運用ルールはどうなっているか。
③将来の防災無線の運用に、一

人暮らしの方などの健康や介護にも活用できる役割の必要性について

町長 ①現在の同報系防災行政用無線はアナログ方式で、運用開始から16年以上が経過しており、修繕などに必要な部品が製造されていない。また、電波法令の改正により、平成34年で現在のアナログ方式が使用できなくなり、デジタル化へ移行する必要があるため、本年度、操作卓を更新し、その後、計画的に周辺機器、戸別受信機の整備をしていく。

②火災、救助活動が発生した際の緊急放送については、消防署、町、消防団で放送時のチャイムの種類等を含め運用について取り決めし、消防署で放送している。災害時の放送要綱としては、火災時には、建物火災及び山林火災については緊急チャイムにより、車両火災及び電柱火災などのその他火災については、24時間、時間を問わずに放送し、鎮圧した後の事故でんまつ放送

については、建物火災及び山林火災については通常チャイムで24時間、車両火災及びその他の火災については、6時から20時までの間は鎮圧時に、それ以外の場合は、翌朝の6時以降に放送することとしている。また、救助活動については、奥多摩消防署だけの対応の場合は出動放送をせず、他の署隊に応援を要請した場合には出動放送することとしている。

③デジタル化に移行することにより、双方向での通信が可能となるが、双方向通信に対応した電波方式は、山間地では電波伝送距離が短く向いておらず、双方向通信をする場合は電波伝送距離を補う子局の設備が相当数必要になる。また、双方向通信に対応した戸別受信機の単価も、受信のみの戸別受信機と比較して高額なものとなり、整備費用を含め莫大な金額が必要となる。防災行政用無線は、災害時における町独自の通信網として備えるべきものであり、双方向通信ができるシステムについては、

通信業者が整備している通信網を利用し、スマートフォンやタブレット端末を利用したコミュニケーション事業を取り入れていくのも有効な方法であると考えている。

《再質問》

石田 防災無線の放送に関しては、高齢者等が、明るく元気な気持ちになれるような要素も必要ではないかと考えるが、これまでに注意している点、工夫している点、苦勞してきた点は。

総務課長 町民からご意見、ご要望をいただき対応しているが、有線放送の時代は近隣にも有線放送施設があり、アナウンサーの方々が意見交換をしていたが、現在では近隣にはないため、独自に放送の仕方等について研究していく必要がある。今後も、町を明るくできるような、アナウンスの仕方等も研究しながら、対応していく。



高橋邦男議員

鳩ノ巣溪谷遊歩道（奥多摩町森林セラピーロード）周辺の整備について

（答） 2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向け、観光客の増加対策をしていきたいと考えている。財源を確保しながら、外国人の来訪（インバウンド）をさらに進めるような方策も含めて、観光の振興に努めていきたい。

高橋 はとのす荘のオープン、平成29年度に白丸湖対岸の通行止めが解除されることから鳩ノ巣溪谷遊歩道の整備は急務である。以下、整備案を提案するが町の考えは。

①旧ホテル周辺をツツジなど季節の草花を見ながら散策できる自然公園に。

②歩きやすい遊歩道整備、森林

の間伐・枝打ちを。

③白丸湖周辺の平地に一休みできる休憩所の設置を。

④旧ホテル跡地に“溪谷の中の露天風呂”を、また、「ジップライン」という森の中に張ったワイヤーを滑車で滑りおり、空中散歩を楽しめる施設を溪谷の上空、または遊歩道周辺につくり、上空から美しい溪谷や豊かな山々を堪能できるようにして売り込んで。

町長 ①自然条件や交通アクセス、地形などの特徴をどのように生かしていくかなど、整備を行う前に検討すべき点があるため、本年度、地形測量を行い、どのような整備がよいのか検討していく。

②白丸ダム周辺の遊歩道整備については、平成29年度の開放に向け、現在、東京都交通局において大きな費用をかけて整備をしていただいている。伐採と枝打ちについては、これまでにも所有者のご理解をいただきながら実施してきたが、今後も間伐

等の森林整備に努めていく。

③白丸湖下流の園地については、東京都環境局が整備しているが、老朽化が見られるため改善等の要望をしていく。

④環境に対する許可権限を持つ東京都の許可が下りるかどうかも含めて検討し、全体計画がまとまったら、議会の皆さんにお話をし、ご意見をいただきたい。

JR青梅線「駅の無人化」への対応について

・・・・
(答) JR八王子支社に対し、4市3町1村で構成している「西多摩地域広域行政圏協議会」により、毎年行っている「青梅線、五日市線および八高線にかかる要望」に「駅の無人化対策」を追加し、強く要望活動を行う所存である。

高橋 駅の無人化によって、今後、JR利用者の安全確保や、暖かな駅員さんとの交流もなくなり、駅構内の荒廃も懸念される。町は、JR八王子支社との

話し合いで、駅業務簡易委託作業の復活の要望を。

町長 2020年には東京オリンピック・パラリンピックも開催されることから、今後は今以上に多くの外国人旅行者が訪れることも予想され、町としてはインバウンド観光を推進する上でも、JR青梅線の運行の充実のもとより、それにかかるサービスの充実も不可欠であると考えている。

《再質問》

高橋 サービス向上にはJRだけでなく、町・住民の努力も必要であるが、今後のJR八王子支社との交渉は。

企画財政課長 無人駅のままでは、住民はじめ観光客の皆様にもサービスの低下を招くため、支社長への要望時に強く要望していく。

町長 JRでは、お座敷列車を奥多摩まで入れるとの計画もある。

り、受け入れる側の町としても要望するだけでなく自ら努力していく必要がある。



師岡伸公議員

若者住宅の安全性確保について

・・・・
(答) 建築基準法など法令上の問題はなくとも、子どもの小さい若者住宅においては、安全対策を第一優先に考え、対応していきたい。

師岡 ①中央階段の安全性確保について

②最上段擁壁部分への侵入防止の安全柵設置について
 ③最上段2棟が昇降するためのベビーカー通路または下段へのベビーカー置き場設置、昇降補助の手すり等設置について

町長 ①敷地の地形上、かなり

の勾配となっていることも事実であり、私自身も現地を確認した後、安全対策を講じるべき場所と認識し、アルミ扉を階段の上下4カ所に設置するよう指示し、整備完了した。

②町において現場を確認した結果、最上段の擁壁の天端に子どもが進入する可能性が否定できないことから、安全確保を図るため、進入を防止するフェンスなどの設置を速やかに検討していく。

③東京都建築安全条例の規定により、階段幅員の確保が必要であり、また、スロープにした場合、勾配が建築基準法の規定を超えてしまう。下段へのベビーカー置き場設置、昇降補助の手すり等設置については、現入居者の皆様のご意見も伺いながら、物理的な安全性や必要性の観点からも考慮に入れて検討していく。

《再質問》

師岡 小丹波住宅ではここ3か月でガラスが割れる事故が3件

発生したが、採用したガラスの強度は。

地域整備課長 海沢若者住宅とほぼ同じガラスであり、サッシの構造やガラスの強度には問題はないと考えるが、ガラス破損時に入居者負担が高額にならないよう、すりガラスの代わりに目隠しシートを接着したガラスで交換できるように、業者と調整しているところである。

副町長 小丹波住宅のほかの世帯のガラスが小さい衝撃で割れることはないか、早急に点検するなどし、対応していく。

子育て家族に交流の場を

（答）急峻な地形の多い当町にとつて、若者住宅の整備には、造成工事をはじめ、さまざまな問題があるが、今後も若者世帯が住みやすい居住空間、生活空間の確保に努めていく。

師岡 海沢の住宅に中庭がある

ように、町営住宅が設置された機会に、近い距離で親同士が交流できるベンチのある小さな空間があれば、時間に制約されずに、より子育て家族の交流の場がつくられるのではないか。今後の若者住宅の建設候補地も含めた考えは。

町長 若者住宅に隣接する熊野神社の境内の一角を利用していただく、お母さんや子どもが集えるベンチや遊具などを設置することを計画している。設置するベンチや遊具については、幼児を基準に危険でないもの、極力維持管理が不要なものにすることで、神社に遊びに来られる地域住民を含め、さまざまな利用者の安全性を最大限に確保していきたい。

《再質問》

師岡 ベンチや遊具が壊れ、補修が必要な場合、管理責任は。

若者定住化対策室長 神社側としては、けがや事故のないよう、

町で維持、管理をされたいとのことであり、今後町の内部で、若者定住化対策室を中心に所管の担当等を詰めていく。

観光バス駐車場の確保を

（答）バス専用駐車場が不足している状況ではないが、団体客の誘致は必要であるため、今後とも色々な面から検討したい。

師岡 観光バスを停留、待機できる場所を確保することで、団体客の誘致を促進できないか。全体的な観光需要の増加策としての所見は。

町長 バス利用者の動向は町内消費などのメリットは少ない状況である。現在、町では、バス利用者が町内で飲食や買い物をし、地域の振興となるよう、町内で見学や体験、飲食ができる場所の紹介や団体向けのプログラム、団体割引などの特典を掲載したチラシを作成し、氷川駐車場においてはツアーコンダク

ターや添乗員の方に配布し、ツアー企画等の検討をしていただけるよう準備を進めており、夏前には実施する予定である。



小峰陽一議員

第5期長期総合計画の進捗状況は

（答）既存事業の拡充や見直しを図り、現状で考えるベストな事業を切れ目なく実施できる管理体制と推進体制を構築し、あわせて住民皆様の幸福度を高めることを目標に、第5期奥多摩町長期総合計画を重点的な若者定住対策の第2ステージとして、スピード感を持って積極的に推進していきたい。

小峰 平成27年度に第5期長期総合計画が制定され、1年が経過したが、この1年間の進捗状況は。

町長 奥多摩町の重点課題を克服するため、特別に設けた奥多摩創造プロジェクト事業については、子育て支援事業の推進や新たな仕組みの構築、新たな町営若者住宅及びいなか暮らし支援住宅を整備するなど、ソフト事業・ハード事業ともに、初年度としては納得したスタートが切れたと考えている。

地域防災のあり方について

（答）町における災害対応については、近い将来に必ず発生すると言われている首都圏直下型地震も視野に入れ、関係する各種機関と定期的に緊密に連携すること、住民皆様の安全・安心を最優先に確保していきたい。

小峰 ①自治会自主防災組織の充実は。

②防災訓練の内容と方法の見直しは。

③防災エキスパートの養成は。

④奥多摩町地域防災計画の見直しは。

町長 ①有事の際には、自主防災組織と行政との連携・協力が重要であり、情報・連絡体制の強化、支援策について、各種組織ごとにどのような対策が必要で、かつ有効的であるかを検証し、対策を講じていく。

②基本的な訓練は繰り返し行うことが大切であり、災害時に適切に行動できるよう、自主防災組織を中心とした実践的な訓練をしていただきたいと考えており、今後は地すべりや土石流を想定した訓練も取り入れるなど、地域の特性に応じた訓練も実施していく。

③防災士の有資格者がいることから、災害時の体制が強固になることから、自主防災組織にも働きかけを行うなどして養成していきたい。

④雪対策、火山対策、何らかの特別な配慮を必要とする高齢者対策を盛り込んだ計画については、防災会議を開催し、今後東京都へ提出するところだが、今回の熊本地震の被災内容を検証し、町の計画内容について、防

災会議委員の皆さんのご意見をいただきながら、修正する必要があると考えている。



原島幸次議員

自殺防止計画について

（答）地域において関係機関が密接に連携することで、自殺の兆しをいち早く発見する体制が求められていることから、議員皆様にも、ご理解とご協力をお願いしたい。

原島 ①当町における自殺防止計画策定について

②計画策定における重点施策について

③今後の活動について

町長 ①町としては、国の大綱の改定、それを踏まえた東京都自殺対策計画の策定と歩調を合わせて、奥多摩町自殺対策計画

を策定していききたいと考えている。

②気軽に相談できる体制を整備するとともに、相談に対応できる人材の確保、遺族に対する支援等が市町村の役割として重要であり、計画においては、自殺に対して総合的に対応できる環境の整備を重点施策として盛り込む必要がある。

③今後も地域住民皆様に対する普及啓発を積極的に推進し、少しでも多くの方に自殺予防に対する取り組みに参加していただくとともに、町民皆様の心と体の健康づくりを推進していききたい。

《再質問》

原島 ゲートキーパー養成講座の広報は。

福祉保健課長 「ゲートキーパー養成講座」の内容がわからず参加することを躊躇する方もいると思われるので、今後、言葉の意味も含めて広報していききたい。



澤本幹男議員

若者住宅等に入居後のフォローについて

（答）町にとって、若者定住が何よりも最重要課題であり、また、最優先事業であるため、引き続き積極的な定住化対策を推進するとともに、入居後のフォローについても、地域住民の皆さんと協働しながら、若者が住みやすいまちづくりに向けて、引き続き努力していく。

澤本 町に転入してきた方で近くに相談できる親戚や友人がいないと、孤独になりがちである。将来にわたって定住していただく家族を増やし、持続可能なコミュニティを実現するために、町としてどのようにフォローしていくか。

町長 若者定住化対策室、福祉

保健課が中心となり、最初に町とかかわりができた時点から困ったとき、必要なときに迅速に手を差し伸べることができるよう、また、相談内容により、専門職員が対応できるように、各担当間で体制を整えている。一方で、必要以上の介入とならぬよう配慮しつつ、入居時から各世帯の状況把握に努めている。

《再質問》

澤本 若者定住化対策室長の抱負や考えは。

若者定住化対策室長 町が直面する課題の解決は一朝一夕にはいかないものと考えているが、メディアをはじめ、町に関心を示す方々が増えていくことも事実であり、この機会を逸してはならないと考えている。課題の解決に当たっては、町税をはじめとする貴重な財源を、何のた

めに、誰のために、どのように公平に使うのかを常に意識しながら、また、手段が目的にならないよう方向性を確認しながら、

なおかつ役場組織においては、各課それぞれの業務が連携し、より大きな効果につながるよう潤滑油の役目も負いながら、地道に一步一步物事を進めていきたい。



宮野 亨議員

日の当たらない場所に反射板を使って日差しを

（答）今後も日照時間の改善に向け、各自治会や地域住民の皆さんのご支援とご協力をいただきながら、日照確保対策事業をなお一層推進したいと考える。

宮野 峰谷地区を含む3地区では、冬場は2か月も日が差し込まないという話を聞く。イタリアのヴィガネッラという村の事例にならない、高齢者の健康維持のためステンレス製の反射板を用いて、太陽の光を反射させる

ことについて、町の考えは。

町長 峰谷の下り地区はヴィガネッラ村の事例の場合と異なり、住宅が川沿いに帯のように点在していることから、地域全体に効果を得るには大がかりな施設の整備が必要となる。また、スギやヒノキなどの植林地が多く、成長とともに反射光も遮られてしまうことから、周辺の森林伐採も必要となってくるなど、景観上の問題も多く含んでおり、日照対策として山腹へ反射鏡を設置することについて、当町の場合は現実的ではないと考えている。



村木征一議員

空き家を使ったIT企業の誘致について

.....

(答) 定住サポーターによる空き家調査の結果、44軒の空き家

が把握されたことから、これらの空き家所有者の意向を踏まえた上で、誘致活動を続けている先進事例などを参考に、誘致に当たつての条件設定、町が誘致企業に対して実施できる助成制度等の内容について調査研究するとともに、空き家所有者への聞き取り調査などをあわせて行い、IT企業のオフィス誘致の可能性について検討していきたい。

村木 若者の就職口確保、税収増加が期待できるうえ、IT企業の誘致は大がかりな設備投資の必要がなく、古民家に移り住んで仕事ができることから、誘致は可能ではないかと考えるが、町長の所見は。

町長 町には、東京都内にはない豊かな自然があり、近年の登山ブームを背景に多くの観光客が町へ来ていることなどから、町に関心が高く、移り住みたいと思っているIT関連の有能な若い方は多数いるはずであり、

企業誘致がなかなか難しい当町においても、既に幹線道路の全域に光ファイバー線が敷設されており、徳島県神山町の例からも大変魅力があると考える。



木村 圭議員

奥多摩駅前照明の増設について

.....
(答) 奥多摩駅前は観光立町を標榜する当町の玄関口として、長期的には駅周辺全体の再整備を図るための計画づくりを行う考えであり、その中で街路灯などの「照明設備」も景観と併せて整備していきたい。

木村 奥多摩駅前は夜になると駅の周りの明かりも少なく、観光地としては大変寂しい光景である。また、通勤通学の町民から、帰宅時に駅前の横断歩道付近が暗く、もう少し明るくなら

ないものかという声も聞かれる。観光協会の建物や西東京バスの施設等を利用し、照明の増設が必要と考えるが、町の考えは。

町長 観光案内所改築に際し、道路側に屋外照明2灯を設置しており、午後5時頃から翌朝まで点灯しているが、今後、電球を現在より照度の高いLED電球に替えるなどして明るくしていきたい。



大澤由香里議員

奥多摩小屋の建て替えについて

.....

(答) 現時点では解体する方向で考えているが、関係機関である東京都や環境省にも奥多摩小屋に対する想いや考えがあると思われるため、今後、そのあり方について、都や国の担当者として検討を重ねた上で最終的な判断をしたい。

大澤 雲取山にある奥多摩小屋は、老朽化により閉鎖の話も聞くが、町長は奥多摩小屋をどのように位置づけ、今後どうしていくのか。

町長 仮に数億円の費用をかけて改築を行うと、町の行政財産使用料条例に基づき、管理委託を行う業者から年間数百万円の使用料を徴収することになり、管理運営を受ける者がいなくなると思われる。また、「雲取避難小屋」「雲取山荘」もあり、町営奥多摩小屋は所期の目的を十分達成したと考えている。

《再質問》

大澤 解体する場合、テントサイト、トイレも撤去することになるか。

観光産業課長 自然公園法上、テントサイトの設置は管理人やトイレの有無が許可の基準となっているが、町単独の費用では財政的に難しいことから、国や都と総合的に協議しながら、最終

的な判断をしていきたい。

町の花ミツバツツジについて

・・・・
(答) 現在植樹されているミツバツツジについては、引き続き適正な管理を継続するとともに、各公共施設での植栽については、生育環境の整備が重要であるため、今後の検討課題としたい。

大澤 登記トレイルに植樹している出生記念樹のミツバツツジの中には枯れているものも見受けられる。植えたあとの維持管理や手入れは。また、町的主要な施設にはミツバツツジを植えるべきだとの意見もあるがどのように考えているか。

町長 記念植樹地については、町の森林を管理する保安員及び一般社団法人おくたま地域振興財団への森林トレイル管理業務委託の一環として下草刈りを行い維持管理に努めている。各公共施設での植栽は、日当たりや他の植物との競合等、生育環境

を研究する必要がある。

《再質問》

大澤 枯れて無くなっている記念植樹の今後は。

住民課長 枯れてしまったもの以外に、家庭に持ち帰ったものもあり、数は減少しているが、一概に誰の木がないから補植をするということではなく、現在植樹されているミツバツツジについて、引き続き適正な管理を行い、生育環境を観察しながら、研究、検討を続けていく。

山村留学の検討について

・・・・
(答) 定住を希望する方々の受け皿が十分でない中で、丹波山村のような親子留学用住宅等の整備を行うことは優先順位等の面から難しいと考えるが、空き家などの活用による体験入学を経ての定住については、他の定住希望者とのバランスを見ながら可能性を検討したい。

大澤 ふれあい農園のように気軽にお試し移住ができる制度として山村留学制度を導入することについて町の考えは。

町長 山村留学制度のニーズがどの程度あるのかを見極めたいと考えているが、1年単位の更新が必ずしも定住につながるかは、同制度導入自治体の状況も見聞しながら分析する必要があると考える。

《再質問》

大澤 若者住宅、空き家等の一部を山村留学用として受け入れ体制を作れば可能では。似た環境にある丹波山村にならって、ぜひ当町でも導入を。

若者定住化対策室長 住宅の供給数量、予算の面、また奥多摩に住みたいという人はかなりいるという中で、バランスを見ながら、今後の研究、検討課題としたい。



清水 明議員

公共施設等の整備について

・ ・ ・ ・ ・
 (答) 今後の公共施設等のあり方について、長期的な視点から、既存の施設を効果的かつ効率的に活用し、運用していくことが重要であると考えている。

清水 ①人口減少社会到来と公共施設の整備について

②公共施設の首都直下地震への備えについて
 ③民家の危険度判定の実施と補助など減災対策の支援について
 ④南岸道路開通に伴う観光客への誘導サインや看板の設置について

町長 ①各種の公共施設等については、平成27年度に策定した奥多摩町公共施設等総合管理計画に基づき、計画的に効率よく維持管理を行い、長寿命化を図

ること、また公共施設等の利活用促進や統廃合を進めることで将来負担の軽減を計画的に推進していく。

②庁舎建設のための基金積み立てを開始し、新庁舎建設庁内検討委員会を設置したところである。できるだけ早く役場庁舎のあり方について方向性を出すとともに、その他の公共施設についても更新・統廃合・長寿命化等を計画的に行っていく。

③旧耐震基準で建築された住宅が多くあり、現在の基準に沿った耐震化を図ることで地震による被害を減少させるため、補助制度等について今後検討したい。
 ④柵沢・白丸地区、奥多摩駅周辺など国道41号に位置する地域の交通量が減少する傾向にあり、単に通過するだけでは観光振興に繋がらないことから、案内看板の設置は必要と考えている。

《再質問》

清水 日ごろの道路点検等により、個人住宅や敷地などで危険配慮の必要性があると思われる

ような事例の把握は。

総務課長 西多摩建設事務所、町の地域整備課によるパトロールでは、主に道路等を見ており、各家庭の踏み込んだ部分までは確認できていないが、道路のひずみ等の状態から、その家の敷地に危険があるような場合にはそれぞれ連絡が来る。また各個人の家から、裏山に亀裂が入っている等の連絡があった時には、対応しているところである。

公務員犯罪の防止について

・ ・ ・ ・ ・
 (答) 信用失墜行為の発生を未然に防止するとともに、これらの行為が発生した場合に、厳正かつ公正な処分を行うため、奥多摩町職員倫理マニュアルを定め、職員の倫理行動規範、職員の行動基準、綱紀の保持のための具体的方法を規定し、職員一人丸となって全力を挙げて取り組んでいる。

清水 ①集合研修に犯罪防止の

観点からの研修を

②ドライブレコーダーを公用車に設置することについて
 ③政治家の寄付の禁止について
 定期的に広報しては

町長 ①市町村職員研修所では、新任職員研修、課長職研修などで汚職等非行を起こさない職場づくりのための研修を実施しているが、職員が町民から疑惑や不信を招かれないよう、高い倫理観を持って職務に取り組むため、全職員を対象とした職員研修として取り入れるよう検討する。

②職員の安全運転意識が向上すること、公用車が防犯カメラとしての機能を発揮すること、住民皆様の安全・安心が確保できるのであれば今後、設置を検討したい。

③政治家の寄付の禁止について有権者にお知らせすることがクリーンな選挙につながるため、強化月間の期間などに「広報おきたま」「町ホームページ」を通じて広報していく。

議会 日誌

5月

- 9日 西多摩郡町村議会議長会会計
監査・総会
- 17日 身体障害者福祉協会総会
東京都町村議会議長会役員会・
総会・講演会・意見交換会
- 20日 第1回臨時会（第1日）
- 21日 奥多摩中学校体育大会
タンポポの会定期総会
- 23日 青梅交通安全協会定期総会
西多摩地区議定会定期会議
- 24日 老人クラブ連合会総会
青梅防犯協会定期総会
- 25日 観光協会総会
- 26日 三多摩地区消防運営協議会
役員会・総会
- 27日 三多摩上下水及び道路建設促
進協議会理事会・総会
青梅商工会議所懇親会
西秋川衛生組合臨時会
- 28日 古里小学校運動会
- 30日 全国町村議会議長・副議長研修
会

6月

- 4日 水川小学校校命の日
齊藤次男氏総務大臣賞受賞祝
賀会
- 7日 議会運営委員会
- 11日 奥多摩消防署水防訓練
町P連総会
- 12日 カヌーフェスティバル開会式
- 14日 第2回定例会（第1日）
- 15日 第2回定例会（第2日）
- 16日 木村奨学会合同会議
- 17日 第2回定例会（第3日）
- 18日 春の交通功労者等表彰式
- 22日 民舞踊連盟おさらい会
- 23日 24日
議員管外視察研修（福島県富岡
町・いわき市）
- 25日 郷土芸能保存団体協議会総会
- 27日 瑞穂町議員講演会
三か町村議会議員広域連絡協
議会役員会
- 28日 東京都市町村議会議員公務災
害等補償組合議会議
29日 青梅警察懇話会懇親会

7月

- 3日 消防団ふれあいまつり
- 4日 青少年問題協議会
常任委員会合同視察（西秋川衛
生組合施設）
- 12日 13日
西多摩郡町村議会議長会優良
町村視察（長野県飯綱町）
- 16日 少年少女スポーツ大会
- 20日 大多摩観光連盟通常総会・意見
交換会
- 三多摩上下水及び道路建設促
進協議会第3委員会
議会だより編集委員会
- 21日 22日
全国森林環境税創設促進議員
連盟総会（岐阜県高山市）
- 26日 東京都町村議会議長会役員会・
臨時総会
東京都町村会・町村議会議長会
合同会議・結団式
- 27日 三か町村議会議員広域連絡協
議会定期総会
- 29日 東京都町村議会議長会要望活動
三多摩上下水及び道路建設促
進協議会第1委員会

議員会より
熊本地震に義援金

奥多摩町議会議員会では、平成28年熊本地震に係る義援金として、東京都町村会を通じ、12万円を送りました。
議員一同、一日も早い復興をお祈りしております。

議会だよりのご感想を
お寄せください

また、議会に対するご意見・ご要望等がありましたら、お気軽に議会事務局までお知らせください。

瑞穂町議会議員講演会

平成28年6月27日(月)

瑞穂町では、議会活性化の取り組みとして、早稲田大学マニユフェスト研究所と議会サポート制度を締結しており、今回早稲田大学名誉教授の北川正恭先生(元三重県知事)を招き、「地方創生時代の議会と執行部とは」と題した講演会を企画し、奥多摩町議会議員有志が聴講に行きました。

三重県知事・地方議会議員の両方を経験した北川先生ならではの観点から議会の役割と活性化について解説していただき、今後の議会活性化に役立つ内容でした。



常任委員会合同視察研修

平成28年7月4日(月)

総務文教常任委員会・経済厚生常任委員会合同で、西秋川衛生組合施設の視察研修を実施しました。

現在、西秋川衛生組合では、最終処分場からごみを掘り起し、再度焼却して一部を舗装材に再利用するなど最終処分場を長期的に使えるよう努力しています。私たちが日ごろの生活の中でごみの減量・リサイクル等により一層意識していく必要があると感じました。



管外視察研修報告



《被災したバトカー前にて献花》

6月23日から24日まで町議会の議員管外視察研修が行われ、議員11名、加藤副町長、澤本事務局長、原島主事の総勢14名で福島県富岡町といわき市を視察してまいりました。

初日は、富岡町語り部ガイドの案内により、立ち入り許可が制限されている富岡町内の視察及び献花を行いました。富岡町では、現在でも町内のいたるところに放射能汚染廃棄物が黒い袋に入れら



《震災当時のままの建物》

れたまま山積みになっている状況です。一方で、語り部ガイドの話では、かつて富岡町では福島第二原発のおかげで、多くの雇用があったこと、体育館・運動場を始め多くの施設を作ることができ、多くのスポーツ選手を輩出することができたことから、東京電力に対して複雑な感情を持っているように感じられました。震災直後、富岡町では、原発の影響から町に戻る意思を示していたのは高齢者ばかりでしたが、最近では50〜60代の住民も町に戻りたいと考えているとの調査結果が出たとのことです。震災前の富岡町を取り戻すことはできないが、今後、「復興」ではなく「新興」を目指したいとの前向きな話を聞くことができました。

富岡町内視察後は、小学校校庭に設置された仮設商店街「浜風商店街」を訪問しました。現在、浜風商店街には10の事業所が入居しており、また、震災時の写真等の展示スペースがあります。浜風商店街では、震災時の写真等の見学、出迎えてくれた商工会の方々から震災時の状況やその後の生活等について話を聞くなどし、また各自買い物をする事で復興支援に協力しました。

二日目は、塩屋埼灯台にて震災語り部講話を受けるとともに、復興状況の視察を行いました。震災語り部講話では、津波が押し寄せると瞬間の生々しい体験に基づく教訓を学ぶことができました。地震発生から津波が押し寄せるまでの数十分の間に、瞬間的な判断をしなければならぬ場面がいくつもあり、そのうち一つでも判断を誤っていたら、私はここにいなかった、議員の皆様は日ごろから災害が発生した場合に備えて避難場所・経路等を調査し、いざという時には先頭に立って住民を誘導してほしい、との話が印象的でした。また、

灯台近くでは高台に新しい宅地を造成する工事が行われていましたが、全300区画のうち、現在のところ希望者は40区画にとどまっているとのことでした。

視察の最後には小名浜魚市場を訪問し、漁協担当者に福島産海産物の安全性についての説明を受けました。小名浜魚市場では、平成27年3月に竣工した最新の施設に検査機器が設置されており、水揚げ日毎、魚種毎に固よりも厳しい基準を独自に定め、モニタリング検査を行っています。しかし、実情は今もなお風評被害が続いており、同じ漁場で獲れた魚でも、小名浜漁港で水揚げするだけで他の漁港よりも買いたたかれてしまうとのことでした。小名浜魚市場では、このような風評被害を払しょくするため、海産物のモニタリングを行い安心・安全の確保と広報に努めています。

奥多摩町では津波や原発事故といった災害は想定されませんが、土砂災害等の発生時には今回の視察で学んだ教訓・心構え等が多いに活きると思います。また、今

回の視察研修では、訪問先において各自が福島県内で消費することを心掛け、「ふくしま観光復興支援」に協力したことでも、有意義な視察研修となりました。



《小名浜魚市場での研修の様子》

第3回定例会

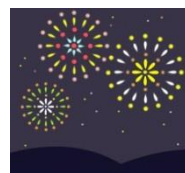
9月6日頃から予定しています。
詳細は、町ホームページ、防災行政無線でお知らせします。
皆様の傍聴をお待ちしています。

編集後記

旧古里中学校の活用は奥多摩日本語学校に決まりました。町は活用部分を分け、災害時の避難場所に校庭や体育館を指定し、文化団体やスポーツ関係者の利用も可能とし、プール施設は防火水槽としました。来年の十月に開校予定、また企業の誘致に伴う雇用の創出に期待します。

第24回参院選から、18歳選挙権が導入されました。報道に我が国の18歳世代は「現状維持」を選択し、海外のオーストリアでは2007年に16歳に引き下げた事により政治への関心と新聞を読む割合が高くなったとありました。

政権の基盤は一段と安定しましたが、それだけに一層、丁寧に、人に優しい政治、若者など、未来のために政治を進めてもらいたいと思います。



村木 征一 (宮野 亨)
師岡 伸公
原島 幸次 澤本 幹男